

1 単元名 「かけ算（乗法の意味）」

2 単元について

本単元では、かけ算の意味を理解し、かけ算を使うことのよさを実感し、進んで用いていこうとする児童を育てていくことが大きなねらいである。児童は、これまでに具体的な場面で数量を等分したり、全体の量を累加で求めたり、2ずつ、5ずつ、10ずつまとめて数えたりする活動を通してかけ算の素地となる経験をしてきている。第1学年では、全体の総量を求める場合、加法を用いてきた。ここでは、さらに見方を広げ、同じ大きさのまとまりがいくつかあるとき、その全体の大きさを「～のいくつ分」ととらえ、乗法の意味について理解することがねらいである。

乗法は、加法とは異なる新しい計算として位置づけられる。また、その表現方法だけでなく、完成した乗法九九を唱えることで、結果が簡単に求められるというよさがある。できあがっている九九を唱えさせるだけでなく、九九の成り立ちに着目させて、児童自身が九九を構成することを通して学習するよう支援していくことが大切である。

本単元では、「1つ分の大きさ」やその「いくつ分」という言葉をおさえることはもちろんであるが、身の回りの事象から乗法で表せる場面を探しながら、乗法による総量の求め方の「よさ」に気づかせていくよう配慮したい。身の回りの生活の中には同じ数ずつあるものがたくさんあることに気づかせることによって、乗法が生活の中で生かされていることを実感させることができ、生活の中で有効に使用しようとする意欲を喚起できると考える。

そこで、身の回りの物から同じ数ずつあるものに着目させ、児童自ら同じ数ずつあるものを探す活動を取り入れ、それらをかけ算の式で表していくようにする。さらに、乗法の式に表したものをブロックと対応させてお話作りをし、乗法の理解を深めていきたい。

3 単元の目標（詳細は評価規準参照）

- (1) 身の回りからかけ算で表せる数量の場面を進んで見つけようとする。
(算数への関心・意欲・態度)
- (2) 「基準量」「基準量の数」「全体の量」の3者の関係を理解し、その関係を説明することができる。
(数学的な考え方)
- (3) いろいろな場面で、かけ算の使える場面とそうでない場面を判断し、使える場合にはその場면을かけ算の式に書くことができる。
(表現・処理)
- (4) 記号「 \times 」や用語「かけ算」「～ばい」の意味、単位とする大きさのいくつ分かを求めるときにかけ算を用いればよいことがわかる。
(知識・理解)

4 単元計画（詳細は評価規準参照）

1時	同じ数ずつあるものの数え方	
2時	乗法の意味・式の書き方	
3時	乗法の式表現と式の読み	(本時)
4時	連続量の場合の乗法の意味、「倍」での表し方	
5時	乗法の問題作り、絵本作り	

5 本時の学習指導

(1) 本時の目標 「1つ分の大きさ」や「いくつ分」の数に着目して、乗法の式に表すことができる。

(2) 学習指導過程

学習活動・意識の流れ	支援と留意点
<p>1 かけ算の式の表し方を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ数ずつ何個あるときに、かけ算の式に表すことができたよ。 8こずつ3はこ分だから、8×3だ <p>2 絵や写真を見て、かけ算の式を作る。</p> <p>(1) 同じ数ずつあるか確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ～さんは、机の脚の数を見つけてすごいな。机の脚はみんな同じ数だ。 これは同じ数ずつになっていないよ。 <p>(2) かけ算の式に表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2個ずつ4人分なので2×4だ。 2そうに3人だから2×3かな、3×2かな。 次は～さんのを式にしてみよう。 <p>3 かけ算の式を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 3はこに6個ずつだから3×6です。 1はこに6個ずつ、3はこに入っているので6×3だと思うよ。 たてに3こずつ6列と考えたら3×6と考えられるよ。 同じ色が2個ずつ9列あるから2×9もいいよ。 1つ分の大きさによっていろいろな考え方があるんだな。 <p>4 5×6のお話を作る。</p> <p>(1) ブロックを並べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 5個ずつ6列に並べたらいいよ。 <p>(2) お話作りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ブロックをりんごにしてみよう。 今度は、動物でお話を作るよ。 <p>(3) ペアで発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ～さんは、5×6の話になっているね。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中に乗法がたくさんあることに気づかせるために、身近な場面から同じ数ずつあるものを見つけることを前時の終末に課題として出しておく。 かけ算の式にできるのはどんな時だったか、前時を思い出しやすいように掲示しておく。 かけ算の意味の確認のため、友だちが見つめてきたものが何個ずついくつ分あるのか確かめ合う活動を受けける。 1つ分の大きさを意識させるために、意図的に同じ数ずつないものも例としてあげる。 答えは、数え足しや簡単なたし算で求め、数が大きくなりすぎるものは式だけでよいことにする。 かけられる数とかける数を逆に表す児童には、何個ずついくつぶんになっているかを一緒に考え、確かめる。 同じ場面でも、1つ分を何にしたかで違う式になることを話し合いを通して気づくよう、交流の場を設ける。 児童が見つめてきた中に、10より大きい数がある場合も認める。 5×6をブロックで表し、それを具体物に変えてお話作りをさせ、乗法の理解を深める。 <p>評 【表】具体的な事象から乗法の場面を\timesの記号で表したり、式をよんだりすることができる。</p> <p>B：乗法の場面を\timesの記号を用いて式に表したり、式で表せたものを累加の式に表したりすることができる。</p> <p>A：言葉、図、式を用いて表現できるとともに、絵や図から式、式から絵や図のように相互に表すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今まで生活のなかでみつけてきた同じ数ずつあるものを想起させ、具体物を考える手立てにする。 早くできた児童は、他のかけ算の式でも作るように促す。